静岡県近代史研究会

会報

11月
2025年10日
月刊第566号

＜11月例会レジュメ＞

金原明善の林業実践とその意味

伴野文亮（TOMONO Fumiaki）

本研究は、金原明善による林業への取り組みを分析し、金原による林業実践の歴史的な意味を検討する。

日本近代における林業史の研究は、福本和夫『日本の山林大地主』（青銅社、1954年）や北條浩『日本近代林政史の研究』（御茶の水書房、1994年）、並松信久「土倉庄三郎の富国殖林思想」（『京都産業大学論集社会科学系列』33巻、2016年）をはじめとして、明治国家の山林をめぐる諸政策とその影響、および明治政府のなかにいて林政を主導した政治家や林学者、山林を経営した地主の営みが明らかにされてきた。とりわけ並松の研究は、代表的な山林地主である土倉庄三郎を事例として、彼が林業に従事した動機の根底に「富国」を念頭にした経済思想が存在したことを指摘している点で重要である 。並松が明らかにしたように、明治という時代にあって林業に携わった人びとは、彼らの思想の深部に殖産興業につながる「富国」化への志向性・思想を持っていた。今後は、林業に従事した主体の形成過程に改めて着目し、林業に従事した主体の「林業で国を富ます」という実践の思想的な背景とその意味を検討する必要があると考える。かかる観点から、明治中期から大正期まで林業に携わった金原明善の思想と行動を検討する。

金原の林業については、金原が天竜川治水の必要性から事業を始めたと述べていることから、今日までに多くの成果が紡ぎ出されてきた。だが、これまでに蓄積された金原の林業に関する研究の多くは、天竜川の水源涵養を企図して取り組んだ実践についてはしばしば論じられてきた一方で、その他の実践については十分に詳らかにされてきたとは言い難い。金原は、天竜川上流域での植林活動を展開し、さらに岐阜県や広島県などで植林指導も展開している。かかる諸実践の存在を前提にした場合、金原が具体的に何を考えて林業に従事していたのか、その思想的背景を詳らかにするとともに、日本近代という時代におけるその歴史的な意味を、改めて検討する必要があろう。

以上の観点から、本研究では、金原明善による林業の歴史的な意味を、彼の実践の総合的な検討を通して再考する。

金原をして林業に向かわせた要因とは何だったのであろうか。第一に天竜川の水源を涵養して治水を完璧なものとする目的、第二に「御国」と「同胞」を念頭に林業を発展させることが自身の「天」に対する「報効」であるという意

られたというのも的外れと言える。海防は、陸上防衛（台場）と海上防衛（海軍）の両輪から成っていたからであり、坦庵もそれを十分理解していた。「韮山の役所からは、沖行く船がよく見える」という英敏のセリフも、おかしい。韮山代官所から海は見えない。

さらに、塩田虎尾は、藩命によって嫌々江川門下に入門したようになっているが、実は、彼の実兄である備中松山藩士田那村淳（松郎・吉廸）は、次男だったため分家して韮山代官所に勤務、坦庵の下で高島流砲術を習得し、鉄砲方附手代・普請役格になった人だった（樋口「佐倉藩出身の漢学者田那村謙輔とその一族」『佐倉市史研究』第28号、2015年）。塩田が江川門下に入る前提には、この実兄の存在があったはずである。そのような事実は知られていなかったのであろう、小説中に田那村淳は登場しない。

塩田は、磯村速見とともに、幕末、京都に滞在していた当時の西周の門人でもあった。維新後、西が沼津兵学校頭取になると、塩田は沼津の西を訪れてもいる（樋口『幕末維新期の洋学と幕臣』、2019年、岩田書院）。沼津兵学校には高梁藩からの留学生がいたとされるが、塩田のことであろうか。

フィクションは面白ければよいのであろう。野暮なこととはわかっているが、あえて毒づいてみた。

例会のお知らせ

＜11月例会＞
日時：11月16日（日）14:00～17:00
場所：Web会議システムZOOM/鎌倉文庫
申込方法：本誌２ページをご覧ください。
報告者：伴野文亮氏（本会会員）
内　容：金原明善の林業実践とその意味
＊開催日が通常の土曜日ではなく日曜日となっておりますのでご注意ください。

＜12月総会＞
日時：12月20日（土）
所：Web会議システムZOOM/鎌倉文庫
申込方法：12月会報に掲載します。
内　容：会誌合評会

＜会報に原稿をお寄せください＞
現在、手元に原稿のストックがありません。短いものでも結構ですので、ぜひご寄稿ください。

会報原稿は、下記のアドレスにメールで送ってください。但し、掲載号については会報編集担当者にお任せください。どうぞよろしくお願いいたします。
メールアドレス：cqh00053*nifty.ne.jp
（*は@に変えてください。会報編集担当　川上）

静岡県近代史研究会会報 第566号（月刊）
2025年11月10日
非売品　（非会員は印刷実費100円）
連絡先 〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1
静岡県立大学 国際関係学部 森山優研究室
電話：０５４－２６４－５３８６（直通）
年会費：4,500円（メール会員は3,500円）
ゆうちょ銀行払込口座：00850－6－54573
ホームページ：